

◆ 後援会について ◆

日本大学第二学園の教育と経営の充実・進展を後援すること、並びに会員相互の親睦を図ることを目的とした後援会には、在校生保護者である通常会員の他に特別会員があり、学園当局の同意を得て主に親睦関係の事業や活動を行っています。

総務・名簿・研修の3委員会で役割を分担し活動しています。卒業生保護者は卒業年数が経過した方でも随時特別会員に入会することが出来ますので、ご希望の方は学園事務所までお問い合わせ下さい。

後援会特別会員 名簿委員会

こうえんかい便り (特別会員)

2024.12.21 Vol.16

後援会半世紀を超えて

温かいつながりをいつまでも



理事長 長島 庫子

前日の嵐が嘘のように晴れ渡った2024年3月30日、後援会の創立50周年式典が行われました。晴れやかな表情とともに「強運に恵まれているね」という声が会場のあちこちから聞こえていました。

後援会の歴史は、創立当初より「相互理解と親睦」を柱として、世代を超えた温かい繋がりや魅力的な活動によって紡がれてきました。その足跡を記した「五十年史」を見ると、皆様と一緒に活動した数々の思い出が蘇ってきます。

学校説明会で緊張した面持ちの受験生には、保護者目線で学校の様子を話してくださいました。和やかな雰囲気での参加など、個人の時間を犠牲にされることもあったかと思いますが、活動中はいつも輝くような笑顔でした。式典

当日に放映された動画には、生き生きと活動する生徒たちの姿が次々に映し出されました。多感な数年間を恵まれた環境の中で思う存分に過ごせるのも、後援会の皆様のご協力があったはじめてできることなのだと痛感いたしました。本当に有難うございます。心から感謝申し上げます。

学園は、あと2年で創立100周年を迎えます。私も教職員は、在校生だけでなく4万5千人を超える卒業生のためにも、真摯に教育に向き合う努力を続けてまいります。

後援会の皆さまには、今後も健康に留意され、末永く学園を見守ってくださいますようお願い申し上げます。

真の自主創造

野球部監督 齊藤 寛文



平成25年(2013年)卒の齊藤寛文と申します。2023年1月田中吉樹先生からバトンを引き継ぎ、10代目の日大二高硬式野球部の監督に就任しました。

ちょうど同じ時期に高本晴夫先生のご逝去も重なりました。先代の田中先生と高本先生への感謝の意を表したいと思えます。必ず後世へバトンを繋いでまいります。

監督就任にあたり、全ての判断・選択の基準となるチーム理念を打ち立てました。チーム理念は「全選手・生徒の心身ともの幸福を探究する」「日本・世界で貢献する人材を育成する」の2つになります。チーム理念を支えるものが、日本大学の教育理念でもある「自主創造」というチームスローガンになります。

現在の部活動のあり方に関して、「指導者主体」と「選手主体」の考え方があると思います。就任当初、選手たちは「次はどうしましょうか?」と聞いてきました。自主創造というスローガンを掲げていたが、指導者の指示を実行するという風土がそこにはありませんでした。2代目の選手たちは、自ら考えて動く形になってきました。



一見今どきでいいように見えたが、「報道相」などの指導者と選手との接点が希薄な部分がありました。そして、3代目を迎え、この代の初めての大会に臨みました。しかし、結果は初戦敗退。

敗戦後、「こうやって勝つんだ!」と強いメッセージを選手たちに投げかけたかった。だから必死に考えました。今までの自分の考え方を洗い出し、問題点を探し、敗戦の試合を分析し、多くの書物と対峙し、照らし合わせ問答しました。ただ、答えは見つかりませんでした。大切なことは選手との「対話」でした。

日大二高硬式野球部は「選手主体」でも「指導者主体」でもありません。選手と指導者との「対話」の中に、おのずから「正解」「強さ」「勝利への道筋」が浮かび上がってくる。言い換えると、日大二高硬式野球部に形はなく、無形で変幻自在のチームであります。真の自主創造は「選手主体」と「指導者主体」の真ん中にあるのだと思います。チーム作りに正解はないし、高校野球は毎年メンバーが入れ替わります。1年1年が勝負であり、選手たちにとってはかけがえのない一度きりの勝負になります。2026年に学園創立100周年を迎える母校のために、何としても「甲子園の華」を添えたい。その一心で「教育としての高校野球」を具現化させてまいります。

後援会創立半世紀を超えて

2024年度副会長

中村 佳代
渡辺 則幸
齋藤 茂雄

1973年3月に創立した後援会は、昨年度創立50年を迎え、2024年3月29日に記念式典を開催しました。また、長年親しまれた制服は、今年度新1年生よりエンブレムと共



となる2026年度には、学園100周年を迎えます。コロナの感染拡大により後援会の活動は余儀なく中断し、多くの会員が退会、現役保護者との繋がりもなく、卒業後新たに加入する方も少なくなりました。そのような中でも、残された委員・理事が一丸となりこの会を存続させることを目指しました。先輩理事が「人数は少なくなっただけ、一体感が生まれ仲良く楽しめる会だね」とおっしゃった言葉通り、「一体感と仲良く楽しめる会」それが、卒業生保護者が世代を超えて集う会のビジョンのように思います。



コロナが収束し、退会された方が戻り、若い世代の会員が新たに入学してくださり、少しずつ元に戻つつありますが、「戻る」のではなく、時代に即して、前進し続ける後援会特別会員でありたいと思います。「一体感と仲良く楽しめる」ことを大切にして、学園の発展に寄与し、先輩方が築いた半世紀から、さらなる半世紀を目指して共に歩み続けられるよう、今後も皆様のご支援、ご協力、よろしくお願ひ致します。

活動報告

研修委員会

後援会の日帰り研修が6年ぶりに復活しました！親睦を兼ねたランチ会。そして毎回人気の劇団四季のミュージカル観劇。

今回は「赤毛のアン」です。令和7年1月18日東京竹芝にて現地集合・現地解散となります。先着40名の募集です。ぜひお早めにお申し込みください。

過去には写経、祭り寿司作りなどユニークな企画もありました。来年度以降も楽しく有益な研修を進めてゆきます。今後とも研修委員会の活動にぜひご期待ください。



銀杏祭

総務委員会

総務委員会は、11月9日・10日銀杏祭で、5年振りに「お休み処」を開催し、コーヒー・紅茶・麦茶・ジュース・カルピス等お飲み物の無料提供を行いました。約900人の皆様にご来場いただき、ひと時の休憩の場を提供させていただきました。



各委員会活動を展示物で紹介させていただき、本年度より学園のエンブレムが変更された為、委員会でも新しいデザインを考え作成した、学園応援マフラータオルを紹介し、販売致しました。これからも、お休み処が文化祭の憩いの場所であり続けるよう頑張っております。



今年度タオルのデザインが変わりました。新しいエンブレムが入りました。

編集後記

名簿委員会

名簿委員会では、5年ぶりに「こうえんかい便り」を発行することができました。

後援会は昨年50周年を迎えました。3月には記念の式典を開きました。先生方とのパネルディスカッション、懐かしい先輩方のお話、放送部の作品上映と楽しい時間を過ごすことができました。

今年度は、文化祭の「お休み処」、研修の観劇と以前の活動が戻ってきました。

これからも生徒を応援し、会員も楽しめる後援会を続けていきたいと思っております。是非、後援会活動にご参加ください。

